



項目をクリックすることで当該記事に進みます

SIC2023年度定時社員総会(2024年3月5日開催)報告

【第1号議案】 役員新任の件

【第2号議案】 2023年度事業報告及び同決算書の承認の件

【議題3:報告事項】 2024年度事業計画及び予算の報告の件

【議題4:報告事項】 SIC戦略提言発出活動の件

【議題5:報告事項】 「ウラノス・エコシステム」の推進の件

目次

I センター情報

- ① 2024年度第1回SIC学術協議会特別講義開催(4月17日(水):一般公開)案内
【講義テーマ】「自在化身体:身体性のシステムの理解とその応用」
【講師】 東京大学先端科学技術センター 副所長 教授 総長特任補佐 稲見昌彦 氏
- ② SIC2024年度・連続講義「現代システム科学講座(第二回)」(一般公開)受講者募集案内

II センター活動

- ① 2023年度第2回SICフォーラム開催(4月9日)案内(会員限定)
【タイトル】「私たちは「人新世」を生きのびられるのか? ~DX時代の倫理と可能性~」
【講師】 学習院大学 名誉教授 遠藤 薫 氏(SIC理事)
- ② 2024. 3. 19 2024年度第3回実行委員会開催報告

III 会員一覧

SIC2023年度定時社員総会開催報告

開催日時 2024年3月5日(火) 11:00~12:00

開催場所 東京都新宿区西新宿 8 丁目 17-1 住友不動産新宿グランドタワー5F 会議室

および、オンライン出席を併用

定足数 総社員数25名(総議決権数25個)のうち委任状を含め25名(25個)が出席
定款17条によりSIC2023年度定時社員総会は成立しました。

(ここでは、当日配布の定時社員総会資「議案書」より主要部を抜粋し掲載する)

【第1号議案】 役員新任の件

定款22条、および、25条に基づき、下記役員(理事)1名の新任が審議され承認されました。
なお、任期は、現役員(注)の任期満了となる2024年度SIC定時社員総会終了までの約1年とします。

新任役員(理事): 遠藤 薫(えんどう かおる)氏 学習院大学名誉教授

略歴

1993 年 信州大学人文学部助教授(文化情報論講座)

1996 年 東京工業大学大学院社会理工学研究科助教授

2001 年 東京大学社会情報学研究所客員助教授

2003 年 学習院大学法学部政治学科教授(社会学)

2015 年 学習院大学大学院政治学研究科委員長(~2017 年 3 月)

2023 年 6 月より現職

日本社会情報学会 元副会長、元会長、名誉会員計算社会科学学会会長

日本学術会議連携会員

同 「人口縮小社会における課題解決のための検討委員会」委員長

同 社会学委員会社会理論分科会委員長

科学技術振興機構(JST) ムーンショット目標 9 外部専門家

同 さきがけ「社会変革基盤」領域アドバイザー

文部科学省研究データエコシステム事業推進委員会審査委員

横断型基幹科学技術団体連合 元副会長

日本社会学会常務理事(副会長)

その他、学会活動多数

(注) 現役員リストは下記 URL を参照ください

<https://sysic.org/center/officer>

【第2号議案】 2023年度事業報告及び同決算書の承認の件

定款第40条にもとづき、2023年度の事業報告に関わる事項及び決算の報告に対し、2023年度監査報告にもとづき、審議され承認されました。

2a) 2023年度活動報告

1. 活動の概況

実行委員会、分科会活動、人材育成協議会等のほとんどの活動は引き続きオンラインを中心とした形式で実施したが、システム人交流会やケーススタディ講座等一部の活動については対面での開催を行った。

2022年度の定時社員総会は、2023年3月12日に開催され、本年度の活動計画、予算、役員の陣容等が承認され、本年度の活動を本格化した。本年度は、役員の新任、後述の会員拡大のための定款の変更を承認いただくため、6月と9月に臨時の社員総会を開催した。また、定時社員総会の当日に第1回理事会を開催したほか、2回の臨時理事会を開催し、SICの体制、諸活動について議論を行った。

本年度は、昨年度スタートした第2期中長期計画に沿って、人を要素として含む多様なシステムへのシフトに柔軟に対応していくための施策をシステムオブシステム分科会で検討するとともに、もう一つの大きな柱である我が国が抱える様々な社会課題を優れたシステムの構築によって解決するための戦略提言活動に重点的に取り組んだ。

戦略提言活動の本年度の活動内容とその成果を、別途、議題を設けて報告する。主な対象とする6つの分野ごとの戦略提言サブグループで個別の提言作り着手するとともに、昨年度に引き続き各分野における社会課題に関して有識者の方々から意見を伺うべく7回のSIC戦略フォーラムを開催した。

SIC分科会活動については、「流通とシステム化分科会」では海外における流通・物流の標準化とデータ連携の動向について調査を行い、その調査結果をベースに我が国として取り組むべき施策を提言としてまとめるべく活動中である。また、昨年度新設した「システム・オブ・システムズ(SoS)分科会」では、分科会主査の強いリーダーシップのもと人を要素として取り込んだシステムのモデル化や将来像について議論を深めている。昨年度活動を終えた分科会では、高齢者ドライバーにターゲットを置いた「システムヘルスケア分科会」の提言を経産省自動車課に対して説明し、全体的に賛同いただくとともに今後自動車課において検討してみたいとの意向をいただいた。

SIC人材育成協議会では、昨年度に引き続き経営者研修講座を開催するとともに、ケーススタディ研修や特別講義を実施した。また、人材育成協議会主催の講座の受講生間の相互交流、システム人としての意識向上を目的としてシステム人交流会を対面で開催した。

2. 実行委員会の活動

昨年度に引き続き以下の日程で毎月1回、計12回の委員会をオンラインで開催した。各回とも20人近い委員の方々に参加いただき活発な議論を行っている。

1月18日、2月15日、3月8日、4月12日、5月10日、6月14日、7月12日、8月30日、9月27日、10月18日、11月22日、12月13日

実行委員会では、分科会や戦略提言等の活動状況について委員間で状況を共有し、今後☆進め方等について議論を行うとともに、SICフォーラム、研修講座等のイベントの企画と進め方についても継続的に議論を行った。経産省が主導するウラノス・エコシステム☆実現に向けてのSICの取り組みの方向性についても議論を行った。さらに今年度は会員拡大策として、会員枠として新たに準会員資格を設ける案についても検討を行い、委員会案をまとめ、臨時理事会、臨時社員総会に諮り、承認された(準会員資格については、後述する)。また、中期と期末にはSIC事務局から予算の執行状況と執行予定を報告するとともに、円滑な予算執行に向けて委員間で議論を行った。

3. 分科会の活動

「流通とシステム化分科会」では、海外におけるユニットロード化やコード体系等の標準化の動向やGAIA-XやCPFR等欧米を中心に急速に広がりつつあるデータ連携基盤の動向について調査会社に調査を委託し、その調査結果に基づいた提言作りに取り組んでいる。

「システム・オブ・システムズ分科会」は前述のとおり人を含んだSoSの考え方について議論を深めている。

これらに加え、新しく分科会を立ち上げるべく実行委員会において継続的に議論を行っている。

4. 人材育成協議会の活動

人材育成協議会は以下の日程でオンラインにより3回開催した。

2月3日、5月15日、10月13日

また、人材育成協議会主催のもと以下の活動を実施した。

(1) システム人交流会

「デジタルからシステムへ」をテーマとして8月26日に開催し、これまでの受講者に対してシステム人としての認定書が授与された。【参加者数】38名

また、当日は以下のキーノートスピーチが行われた。

横山和輝 氏(名古屋市立大学):「危機の歴史とナラティブ:面白さと怖さ」

元村有希子 氏(毎日新聞論説委員):「複雑化する社会」

(2) 経営者研修講座

「企業を超えた全体最適化☆道を探る」と題して、SIC理事の方々をパネリストとして2月1日に開催。

【参加者数】36名(SIC正会員12名、非会員24名)

(3) ケーススタディ研修講座

「NTTドコモ顧客管理システムALADINの構造改革に学ぶ」と題して、10月28日に開催。

【受講者数】12名

(4) 学術協議会特別講義

・第5回(2月3日) 村田忠彦 氏(関西大学)

【タイトル】リアルスケール社会シミュレーション

【受講者数】23名

・第6回(7月18日) 満永拓邦 氏(東洋大学)

【タイトル】制御システムセキュリティとそ☆技術変遷

【受講者数】28名

(5) 「現代システム科学講座」連続講義 第9回(1月14日) 木村英紀 氏(SIC)、

麻生英樹 氏(産業技術総合研究所)

【タイトル】AIとロバスト制御

【受講者数】58名

5. 戦略委員会の活動

SICの総合的、長期的な活動の指針ならびに中長期的な将来構想を策定するための「戦略委員会」第6回(8月22日)を開催し、戦略提言策定の現状と課題、シンポジウムの開催について協議した。

戦略委員会傘下で昨年度より実施している戦略提言活動は、6つのサブワーキンググループにて政策提言をまとめつつある。

6. SICフォーラム

以下の2回の開催をおこなった。今年度は、一方向のSICフォーラムから、戦略提言に向けて講師や参加者を交えた双方向の議論を中心としたSIC戦略フォーラムに重点を置いたことから以下の2回に留まった。

- ・第1回(3月6日) 松山竜蔵 氏(大和ハウス工業株式会社)
【タイトル】大和ハウスのCCPMによるITプロジェクトマネジメント
【参加者数】83名
- ・第2回(8月8日) 岡本 浩 氏(東京電力パワーグリッド株式会社)
【タイトル】エネルギーの分散化が創出する地域の産業革命 ～融合するネットワークシステムと第4次産業革命の姿～
【参加者数】50名

7. SIC戦略フォーラム

戦略提言に向け各分野の有識者の方々から意見を伺い議論を行うことを目的として、昨年度から引き続き、7回のSIC戦略フォーラムを開催した。

- ・第12回(2月8日)【テーマ:データセキュリティとデジタルアイデンティティ】鈴木茂哉 氏
(慶應義塾大学)、参加者24名
- ・第13回(4月4日)【テーマ:『カーボンニュートラル学術俯瞰図』～意義と活用法～】吉村忍 氏
(東京大学)、参加者39名
- ・第14回(5月12日)【テーマ:防災情報システムの統合化を目指す取り組み】臼田一郎 氏
(防災科学技術研究所)、参加者45名
- ・第15回(6月23日)【テーマ:ダイナミックプライシングによるエネルギーマネジメント:電力の事例】松川 勇 氏 (武蔵大学)、参加者36名
- ・第16回(8月22日)【テーマ:システム障害事例☆分析と考察 ～ IPA『情報処理システム高信頼化教訓集(ITサービス編)』の取組から～】山下博之 氏 (独立行政法人情報処理推進機構(IPA))、参加者94名
- ・第17回(10月31日)【テーマ:ウラノス・エコシステムの推進について】浦川伸一 氏
(SIC代表理事・センター長)、参加者90名
- ・第18回(12月15日)【テーマ: SIC戦略提言 『ヘルスケア』グループ活動報告】山本義春 氏
(東京大学)、高橋透 氏(ニューチャーネットワークス)

8. 広報活動

「SICニュースレター」を毎月発行。各号では、SICの活動状況報告とともに、以下に示すように有識者の方々に貴重な論説や寄稿を執筆頂いている。

- ・45号:論説「横河電機の Digital Transformation(DX)への取組について」 船生幸宏 氏
(横河電機株式会社)
- ・46号:寄稿「デジタル田園都市国家に向けてのシステム科学の貢献」 武田晴夫 氏
(株式会社日立製作所)
- ・47号:2022年度SIC定時社員総会(2023.3.14)報告
- ・48号:寄稿「大和ハウスの住宅系設計部門におけるデジタルソリューションの個人史」芳中勝清 氏
(大和ハウス工業株式会社)
- ・コラム「なぜ『システムマネージャー』が必要か?」木村英紀 氏(SIC理事・副センター長)
- ・49号:論説「量子コンピューティング2023」 杉坂浩一 氏(SCSK株式会社)
- ・50号:論説「社会課題解決入門」 高橋透 氏(株式会社ニューチャーネットワークス)
- ・51号:寄稿「Trans-disciplinarity(TD) という考え方」 安岡善文 氏(横断型基幹科学技術研究団体連合)

- ・52号:論説「複雑化する社会課題を解決するソーシャルデジタルツイン」 瀬川英吾 氏(富士通株式会社)
 - ・53号:寄稿「日本における最新物流事情と日用雑貨業界の物流クライシス適応」 荒木協和 氏
(サンスターグループ)
 - ・54号:新技術紹介「デジタル社会の実現に向けた最先端のトラスト技術」 鎌倉 健 氏ほか
(富士通株式会社)
- コラム「プラットフォームとシステム」木村英紀 氏(SIC副センター長)

論説・寄稿について、前年度(2022年度)に執筆頂いた原稿をSICニュースレター「論説」集(第3巻)としてまとめ、関係機関に配布した。

主に、非会員の一般向けとしてメールマガジン「SIC便り」を今年度も継続して定期的に発行するとともに、SICの紹介パンフレットを作成して広く配布することで新たな会員獲得に努めた。

9. 会員状況および会員拡大策について

SICの会員拡大の方策を実行委員会にて協議してきた結果、下記の「準会員」資格を設けて、会員の幅の拡大を図ることとした。臨時理事会、臨時社員総会にて定款および会員規程の改訂が承認され、本改訂に基づき会員拡大に向けた取り組みの具体化を図っている。

改訂会員規程抜粋:(準会員)

第4条 準会員として以下の種別を設け、本センターの活動への参加形態、資格の範囲をそれぞれの種別ごとに定める。

- (1) インキュベーション会員:資本金5千万円以下または従業員50人以下の企業を対象とし、正会員と同等の資格を有する。会員資格期間は入会から2年間とする。年会費は5万円とする。
- (2) 人財育成限定会員:人財育成協議会が主催するSIC会員限定活動のみに参加を希望する企業を対象とする。年会費は10万円とする。
- (3) 分科会限定会員:分科会活動のみに参加を希望する企業を対象とする。年会費は10万円とする。

なお、2024年3月5日現在の会員状況は以下のとおりである。

- (1) 正会員 25社
2023年度新たに、東京電力パワーグリッド株式会社(6月)の入会があった。
- (2) 準会員 2社 (インキュベーション会員1社、人財育成限定会員1社)
- (3) 学会会員 48名
- (4) 個人会員 11名

以上

2b) 2023年度SIC決算書

省略いたします。必要な方はSIC事務局にお問い合わせください

【議題3:報告事項】 2024年度事業計画及び予算の報告の件

2024年度の事業計画及び予算について報告がなされた。

3a) 2024年度事業計画

2024年はSIC設立後6年目に当たる。これまで蓄積してきた分析、知見、外部発信をベースに、依然として進まない日本の産・官・学におけるシステム化を推進する突破口を切り開くために、一層の努力を集中的に行っていきたい。

2024年度はこれまでのフォーラム開催、ニュースレターの発刊、人財育成のための各種講習会の開催などの活動を続けると同時に、現在以上にSICの存在感を増すような外部発信を強化したい。別途、構想を述べる「ウラノス・エコシステム」の推進への関与を始めとして、SICの活動の奥行きを広げ、その目標の社会実現を具体的に図っていく道を探りたい。

具体的には以下のような事業を計画している。

・戦略提言の発信

○セクターごとのフォーラム

ロジステック

金融

科学技術

防災・レジリエンス

エネルギー

○対外発信のための総合シンポジウム

・経営者研修会の開催

・現代システム科学講習会(第2期、全6回)の開催

- ・行政・金融システムの総合調査(調査会社に依頼)の実施
- ・インフラ・ロジステックス・防災システムの総合調査(調査会社に依頼)の実施
- ・エネルギー。燃料関連のシステムの総合調査(調査会社に依頼)の実施
- ・上記調査に基づくシンポジウム「日本をシステムから考える」の開催
- ・「研究室連合システム構築プログラム」の実施
- ・ウラノス・エコシステム構築の推進支援
- ・インキュベーション会員による新たな分科会の立ち上げ

以上

3b) 2024年度SIC予算計画

省略いたします。必要な方はSIC事務局にお問い合わせください

【議題4:報告事項】SIC戦略提言発出活動の件

2023年度のSICの主要な活動となる「SICシステム化戦略提言」の発出について報告がなされた。6つのサブワーキンググループの2023年度の活動における検討の内容は以下である。

① エネルギー

リーダ 橋誠壽 氏(SIC実船行委員)、高木真人 氏(日本工学会)、古屋聡一 氏(日立製作所)
メンバー企業 東京ガス、三菱電機、横河電機、日立産業制御ソリューションズ、日立製作所研究開発グループ、東京電力パワーグリッド

■エネルギー経済分野でのデジタルツイン・システムの構築

1. リスク管理:エネルギーリスクはフィジカルなものと資源価格のような金融に関わるものを想定。
2. 技術協力に基づく国際的地域開発:エネルギー資源の国際調達の課題について、日本の技術的な先導性を基盤として、どこから調達するかも分析する必要がある。
3. カーボンニュートラルへの企業間連携システムの立案・対応

■需要サイドのサイコロジーに基づいて省エネ誘導を図るシステム群

課題:欧米やアジア諸国に比べて低い日本消費者の脱炭素意識を向上するためのシステムとは?

■CNコンビナート構築のための知識管理システムの提案

■デジタル・電力・水素・物流の統合的なシステム設計

例えば、データセンター群と電力NW運用の連携、など。

② 金融

リーダ 藤井紳也 氏(SOMPOシステムズ)、寺野隆雄 氏(千葉商科大学)
メンバー企業 三井住友銀行、SOMPOシステムズ、NTTコムウェア、クエスト、NTTドコモ

○現在のマイナンバー制度の金融システムへの利用範囲について、以下の観点で検討し、システム構築の提案をしたい。

- ・マイナンバー制度の導入範囲の拡大の利点
個人データ自動連携:納税関連手続き、住宅ローン情報、保険料控除情報、株式譲渡益・配当情報、住民票登録等、免許証・パスポート、etc.
 - ・金融面での利用範囲拡大の観点
銀行預金等での利用、生命保険等での利用など、金融サービスのID一元化。具体的には、顧客情報管理の効率化、サービス提案の質の向上、etc.
ただし、これらが、生活を豊かにするために金融面での利用拡大となっているのかという観点が検討には必要。
 - ・これらを実現するために必要なセキュリティ対策
 - ・分散PDSをベースとした情報共有
 - ・マイナンバー管理の情報セキュリティ対策
 - ・マイナンバー制度の国民の理解向上
- 以上の実現のためにはデジタルエコシステムとしてのシステム構築を構想してみる必要がある。

③ ロジスティックス

リーダ 藤野直明 氏(野村総研)、サブリーダ:西成活裕 氏(東京大学)、河合亜矢子 氏(学習院大学)
メンバー企業 テクノバ、東芝デジタルソリューションズ、ロジスティード(旧日立物流)、三菱重工業

1. 「物流システムの高度化のため問題指摘と解決の方向について」、相応しい粒度をイメージし、以下の視点で整理している。

- ・顕在化している社会課題(例:2024年問題)への切込み
- ・着荷主・物流事業者・発荷主が協調できる領域(例:物流共同化)の構想
- ・協調領域において標準化すべき事項への考え方(例:データの持ち方)の整理

2. 問題の構造を分析し、顕在化した問題を整理して、技術革新(機械化・自動化、デジタル化)の閉塞打破のための以下の方策について提言したい。

- ・発着荷主間の輸送責任範囲の明確化(国際貿易物流のINCOTERMSモデル)
- ・物流の自動化・機械化への投資効果向上を図る方策としての標準化
- ・上記に基づく運輸産業業務の標準化についての基本的な考え方に立つ、物流業界を一体化するデジタルエコシステムの構築
- ・物流不動産事業を活用したマルチテナント型・汎用・大型・通貨型物流拠点の計画的な整備・促進を提言
- ・上記の物流産業の産業構造転換(イノベーション)の加速に合わせた「拡大物流産業構想」の提示

④ 防災・レジリエンス

リーダー 赤津雅治 氏(日立システムズ)、宮前義彦 氏(富士通)

メンバー企業 日立システムズ、富士通、構造計画研究所、日立国際電気、日立製作所研究開発グループ

- ・各企業の防災に向けたシステム・データの疎結合による連携・統合
 - ・シミュレーションによる災害状況予測の高度化
 - ・災害時の情報の欠落のなかでの状態の推定と、その下での的確な回復作業の実行を支援するシステムの構築(「状態の推定」と「的確な回復作業の実行」を系統的にPDC ^① サイクルで行うことが必要)
- その他の検討課題:

- ・大規模災害による物流クライシスへのシステム的な対応
- ・事前防災への取り組み(災害時の対応方針の策定、災害を想定した仕組みや防災訓練の実施、災害時の従業員安全確認や自社の企業活動の復旧などのBCP対応。システム的な対応としては、実際に災害が起きたことを想定し、様々なシミュレーションに基づいての対応策を確立。)
- ・ITとエンジニアリングを融合しての「災害対策・保全支援」をビジネステーマとして確立する
 - 防災・対災に対応したIT技術の提供(インフラ監視、洪水予測、緊急時のアラートや連絡システム等)
 - 映像技術・無線技術をコアとしたIT/IoTによる防災・減災ソリューションの開発・提供
 - 生成系AIを、災害やレジリエンスの境界を機械的に定めるために活用するシステムの構築

⑤ ヘルスケア

リーダー 山本義春 氏(東京大学)、高橋透 氏(ニューチャーネットワークス)

メンバー企業 SOMPOシステムズ、三井住友信託銀行、マツダ、SCSK、富士通、ニューチャーネットワークス

「高齢者の自動車運転にかかる社会システム構想」を以下の観点からまとめた。

- ・自動車の自動運転に向かう技術革新の前の段階での優れた技術の活用を、ステップバイステップで進める。
- ・自動車内部、自動車外のデータを活用し、運転状態の高い精度での測定、利用。
- ・その際の個人情報の取扱いについて、個人としての責任を自覚しつつ、制度面、普及面から利用環境を産業界、学界で示していく。
- ・自動車運転は重要な移動手段であり、重要で身近なテーマである。高齢者運転の問題は、ヘルスケアのみでなく日本の過疎化問題にも通底する。

具体的にシステム構築を検討する項目

1. 自動車に関連して:遠隔地に住む高齢家族をモニタリング、運転・健康年齢の診断、自動車運転技術の定期的なリモート指導(教習)の実施
2. 保険、金融などに関連して: 運転時の生体情報や認知機能に係る情報の収集と、その情報の扱い、安全運転サポート機能に生かす車両の購入などと保険・金融との連携
3. 暮らしサービスに関連して: シニア旅行、学習の場などの民間によるサービス設定
4. 運転免許制度を中心にしたモビリティサービスやその他関連サービスの充実

⑥ 科学技術

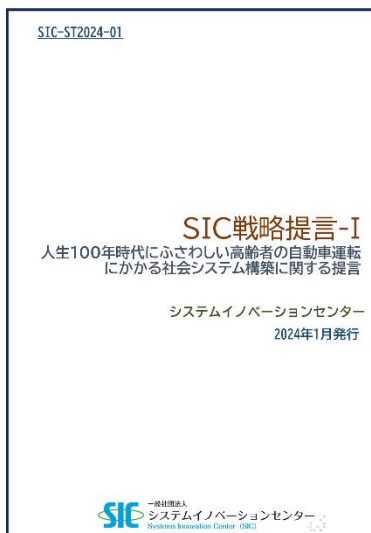
メンバー 木村英紀 氏(SIC副センター長)、出口光一郎 氏(SIC事務局長)

- ・我が国の学術研究は、急速にそのレベルを落としてきた。産業界でも海外に誇れるイノベーションは出ていない。
- ・原因には、大学の法人化に伴い「経済合理性」をその運営の軸足に置き始めたことが挙げられる。これによって学部は就職の予備校化し、大学院は安直に「イノベーション」に直結する手軽な応用研究に引きずられるようになった。国立大学に理事会が設置され、経営者や官僚OBが参画してその傾向を加速している。学術の価値は、経済合理性とは独立な自立した価値であることの認識が薄れてきている。
- ・研究資金の配分審査、使われ方の管理、成果の評価については、一向に改善されていない。＜目標設定→PDの選出→資金の供与＞でプログラムは終了である。肝心の資金がどのように使われているかのプロセスは形式的な報告書で済まされる場合がほとんどである。
- ・研究開発の成果は、研究者個人または研究者のグループの密室あるいは討論の場における頭脳労働から生み出される。資金配分機関はその頭脳労働が円滑に制約なく行われることに最も力を入れるべきである。
- ・「選択と集中」はもともと経営学で生まれた言葉である。大学へ過度な経済合理性を求めることは適当ではないと SICでは考えている。この言葉の流通は、若手研究者の雇用を不安定にし、「研究室」の活力と士気を直撃する打撃になっていることを指摘し、今後は「現場力の活性化」を目指した政策の転換が必要であると思われる。
 1. 産業界(特に製造業)が伝統的に重視し、かつての日本の製造業の世界制覇に大きく貢献したと思われる「現場重視」の考え方が、科学技術政策ではおろそかにされてきた。
 2. 分野を横断する融合研究やレベルの高い社会実装の研究が、様々のレベルで依然として遅れており、特にそれを必要とする「統合知」にもとづくシステムレベルの研究が研究行政で市民権を得ていない。従って統合知を体現する社会システムが未熟である。

⑤「ヘルスケア」ワーキンググループ(SIC戦略提言-I)、⑥「科学技術」ワーキンググループ(SIC戦略提言-II)の戦略提言書がSICホームページに公開されています。下記URLからダウンロード可能です。

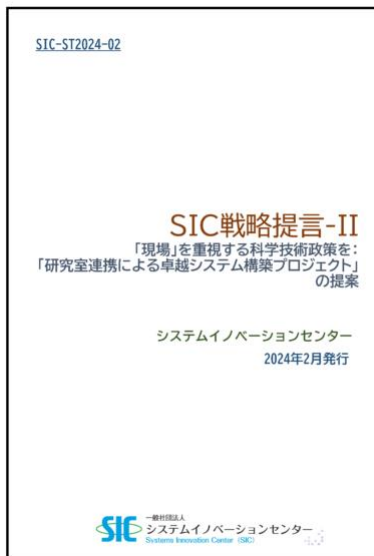
◇SIC戦略提言-I

「人生100年時代にふさわしい高齢者の自動車運転にかかる社会システム構築に関する提言」



◇SIC戦略提言-II

「現場」を重視する科学技術政策を研究室連携による卓越システム構築プロジェクトの提案」



【議題5:報告事項】「ウラノス・エコシステム」の推進の件

「ウラノス・エコシステム」の推進への協同に向けての、SIC理事会での検討状況が浦川伸一SICセンター長より報告されました。

以上

I センター情報

① 2024年度第1回SIC学術協議会特別講義(一般公開)開催案内 主催:SIC人財育成協議会

開催日時: 2024年4月17日(水) 16:00~18:00

参加資格: SIC会員・非会員に関わらずどなたでも聴講できます

開催形式: オンライン開催(MS-Teams)

参加費: 正会員企業は原則2名まで無料、準会員企業は1名のみ無料です

非会員、および、上記の無料枠を越える会員企業からの参加者は¥5,000/1名

参加費の支払いは請求書払いです

申込締切: 4月15日(月)

参加登録: SICイベント参加登録ページ

(<https://sysic-org.sakura.ne.jp/SICregistration.html>)

より、記載の案内に沿ってお願いします。

講義テーマ:「自在化身体: 身体性のシステムの理解とその応用」

講師: 東京大学先端科学技術センター 副所長 教授 総長特任補佐 稲見昌彦 氏

講義概要

人間工学と生理学の知見に基づき、システムとしての身体性の理解と応用を目指す稲見・門内研究室では、生得的な感覚・運動・知的機能を物理的・情報的に拡張・補償する研究を行っている。

バーチャルリアリティなどの技術を活用し、超身体などの新たな身体観を獲得する「人間拡張工学」、主観的体験を視覚・聴覚情報として伝達する技術開発、知覚や感情体験の設計手法の確立、波動や流体を制御するワイヤレス技術の構築など、多角的なアプローチで人間能力の拡張と生活の質の向上を目指している。

本講義では研究の概要を紹介するとともに身体性の未来を展望する。

講師プロフィール

東京大学大学院工学系研究科博士課程修了 博士(工学)。

電気通信大学、慶應義塾大学等を経て2016年より現職。

自在化技術、人間拡張工学、エンタテインメント工学に興味を持つ。

米TIME誌 Coolest Invention of the Year、文部科学大臣表彰若手科学者賞などを受賞。

超人スポーツ協会共同代表、情報処理学会理事、日本バーチャルリアリティ学会理事、日本学術会議連携会員、日本工学アカデミー会員等を兼務。

著書に『スーパーヒューマン誕生! 人間はSFを超える』(NHK出版新書)、『自在化身体論』(NTS)他。



以上

② SIC2024年度・連続講義「現代システム科学講座(第二回)」(一般公開)受講者募集案内 主催:SIC人財育成協議会

一昨年に行った第一回の連続講座「現代システム科学講座」に引き続き、その時の経験を踏まえていくつかの改善を盛り込み、第二回の連続講座「現代システム科学講座」(5回のオンライン講義と1回の対面講義(スクーリング)の計6回)を実施します。開催要項をご案内しますのでご検討を宜しくお願い致します。多くの方がたの御参加をお待ちしております。

SIC人財育成協議会主査 木村 英紀

開催要項は下記の URL からダウンロードできます。

[現代システム科学講座\(第二回\)0329](#)

以下は開催要項からの抜粋

(1) 受講料 (受講料の支払いは請求書払いです)

SIC正会員・準会員所属の方

全6回の講義通しで受講の場合、受講料 30,000円/人(教科書代 4,000円別)
講義単位での受講の場合、 7,000円/人(教科書代 4,000円別)

非会員の方

全6回の講義通しで受講の場合、受講料 48,000円/人(教科書代 4,000円別)
講義単位での受講の場合、 10,000円/人(教科書代 4,000円別)

(2) 受講申し込み方法

SICイベント参加登録ページ(<https://sysic-org.sakura.ne.jp/SICregistration.html>)

より、記載の案内に沿ってお願いします

(3) 講義日程

第1回(オンライン)

・システム科学概論 4月26日(金) 13時30分～17時30分

「システム科学概論」講師:木村英範(東京大学名誉教授・大阪大学名誉教授)

- (1)システム科学の歩み
- (2)古典システム科学

「例題システムの紹介」講師:船橋誠壽(元北陸先端科学技術大学院大学
シニアプロフェッサー)

・データ科学概論 4月27日(土) 9時30分～12時

「データ科学の基礎」講師:椿 広計(統計数理研究所長)

- (1)データ科学の沿革と原理
- (2)データ解析の前提
- (3)予測多変量解析と記述多変量解析

第2回(オンライン)

モデリング

・5月17日(金) 13時30分～17時30分

「モデリングの基礎」講師:木村英紀

- ①モデルとは
- ②状態空間モデルと入出力モデル

「モデルの実例」講師:奥宏史(大阪工業大学教授)

・5月18日(土) 9時30分～12時

「モデリング演習」講師:奥宏史

- ①河川の水理モデル・・・解析とモデル化
- ②シミュレーション

第3回(オンライン)

最適化

・6月28日(金) 13時30分～17時30分

「最適化の基礎」講師:木村英紀

- 最適化の歩み
- 連続最適化

「最適化演習」講師:船橋誠壽、滑川徹(慶應義塾大学教授)

- 大規模問題のへの線形計画法

・6月29日(土) 9時30分～12時

「最適化の現状」講師:松井知己(東京工業大学教授)

- 離散および混合最適化問題
- ソルバーの現状

第4回(対面講義(スクーリング)) (場所:住友不動産新宿グランドタワー(西新宿)5F 会議室予定)

学習・AI

7月26日(金) 9:30分～17時30分

「学習の基礎」講師:木村英紀

- ニューラルネットワークの数理
- 将棋ソフトの実際
- 強化学習

「AI 特論」講師:麻生英樹(産業技術総合研究所総括研究主幹)

- 生成AI
- AIとシステム構築

(終了後交流会を予定)

第5回(オンライン)

状態推定と予測

・9月27日(金) 13時30分～17時30分

「状態推定と予測」講師:木村英紀

- カルマンフィルター

「演習」講師:船橋誠壽、滑川徹

・9月28日(土) 9時30分～12時

「データサイエンス特論」講師:(調整中)

- 粒子フィルター
- 状態推定特論

第6回(オンライン)

制御

・10月25日(金) 13時30分～17時30分

「制御理論概論」講師:木村英紀

- 古典制御
- 状態空間法
- ロバスト制御

「演習」講師:滑川徹

・10月26日(土) 9時30分～12時

「制御の話題」講師:滑川徹

- モデル予測制御
- ネットワーク制御

以上

Ⅱ センター活動

① 2023年度第2回SICフォーラム開催案内

開催日時： 2024年4月9日(火) 15:00～16:15 (MS-Teams によるオンライン) (会員限定)

参加登録： SICイベント参加登録ページ

(<https://sysic-org.sakura.ne.jp/SICregistration.html>)

より、記載の案内に沿ってお願いします。

タイトル:「私たちは「人新世」を生きのびられるのか? ～DX時代の倫理と可能性～」

講師: 学習院大学 名誉教授 遠藤 薫 氏(SIC理事)

講演概要:

いま世界にはいくつもの重大な問題が立ちはだかっている。例えば COVID-19 など新たな感染症の世界的流行、気候変動、巨大災害による文明破壊、先進国における人口の急激な縮小などである。このような時代を「人新世」と呼ぶことも提案されている。

一方、デジタル技術の急激な進歩により、ふと気づけばロボットや AI がそこにいるような状態が当たり前になりつつある。とくに 2022年11月に公開された ChatGPT は、世界に大きな衝撃を与えつつある。デジタル技術は世界を救うツールとなるのか? それともさらなるリスクをもたらすのか?

本講演では、自動運転技術を一つの例としながら、ほぼ同時期に日本、アメリカ、中国で筆者が行った意識調査を参照しつつ、先端技術の社会的受容について検討し、今後の日本社会のあり方を考える。

講師プロフィール:

1993 年 信州大学人文学部助教授(文化情報論講座)

1996 年 東京工業大学大学院社会理工学研究科助教授

2001 年 東京大学社会情報学研究所客員助教授

2003 年 学習院大学法学部政治学科教授(社会学)

2015 年 学習院大学大学院政治学研究科委員長(～2017 年 3 月)

2023 年 6 月より現職



日本社会情報学会 元副会長、元会長、名誉会員

計算社会科学学会会長

日本学術会議連携会員

同「人口縮小社会における課題解決のための検討委員会」委員長

同 社会学委員会社会理論分科会委員長

科学技術振興機構(JST) ムーンショット目標 9 外部専門家

同 さきがけ「社会変革基盤」領域アドバイザー

文部科学省研究データエコシステム事業推進委員会審査委員

横断型基幹科学技術連合 元副会長、日本社会学会常務理事(副会長)

以上

② 2024. 3. 19 15:00-17:00 2024年度第3回実行委員会開催報告

開催形式：MS-Teams によるオンライン開催

出席者数：実行委員15名(オブザーバ2名含む)、副センター長・監事・事務局各1名、
総出席者数18名

司会 松本隆明実行委員長

開始に先立って、2024年度実行委員会議体制と新任メンバーの紹介・挨拶が行われた
議題

1. 報告事項

1. 1 2024年度第2回SIC戦略フォーラム開催案内 久保忠件事務局次長
日時 4月9日(火)15:00-16:15 (オンライン開催・会員限定)
【タイトル】 「私たちは「人新世」を生きのびられるのか？
～DX時代の倫理と可能性～」
【講師】 学習院大学 名誉教授 遠藤 薫 氏(SIC理事)
1. 2 2024年度第1回学術協議会特別講義開催案内 同上
日時 4月17日(水)16:00-18:00 (オンライン開催・一般公開)
【講義テーマ】 「自在化身体:身体性のシステムの理解とその応用」
【講師】 稲見昌彦氏
東京大学先端科学技術センター 副所長 教授 総長特任補佐
1. 3 戦略提言に向けたSWG(サブワーキンググループ)の活動状況報告
・ ロジスティックスSWG報告(藤野直明氏)
・ エネルギーSWG報告(船橋誠壽氏)
・ 金融 SWG(藤井紳也氏)
・ 防災・レジリエンス(宮前義彦氏)
1. 4 2023年度SIC定時社員総会・2024年度第1回理事会開催報告 出口光一郎事務局長
2023年度SIC定時社員総会は2024年3月5日(火)11:00-12:00開催
2024年度第1回理事会は同日13:00-14:30開催
いずれも問題なく終了した旨が報告された

2. 協議事項

2. 1 SIC広報活動の強化について 牧野泰丈実行委員
SICホームページの見直しを外部委託することが決議された
2. 4 継続協議 会員拡大活動:インキュベーション会員の拡大について 久保忠件事務局次長
JOIC(オープンイノベーション・ベンチャー創造協議会)との打ち合わせ結果報告
- その他 ニュースレター「論説」記事等の執筆者予定 中野一夫実行委員
4月号 「2023年度SIC定時社員総会報告」
5月号 「テーマ未定」 JSOL(SIC正会員) IT コンサルティング事業部 大泉洋一氏
6月号 「ウラノスエコシステム」 IPA/DADC ウラノスエコシステム設立室長 尾山氏

次回、次々回の実行委員会開催予定日時

2024年度第4回実行委員会 4月23日(火) 15:00-17:00

2024年度第5回実行委員会 5月21日(火) 15:00-17:00

Ⅲ 会員一覧

正会員

| | |
|------------------------|---|
| SCSK株式会社 | NTTコムウェア株式会社 |
| 株式会社NTTドコモ | 株式会社クエスト |
| 株式会社構造計画研究所 | 株式会社JSOL |
| 株式会社テクノバ | 株式会社東芝 |
| 株式会社ニューチャーネットワークス | 株式会社野村総合研究所 |
| 株式会社日立国際電気 | 株式会社日立産業制御ソリューションズ |
| 株式会社日立システムズ | 株式会社日立製作所 研究開発グループ 社会システムイノベーションセンター |
| 損害保険ジャパン株式会社 | 東京ガス株式会社 |
| 東京電力パワーグリッド株式会社 | 日鉄ソリューションズ株式会社 |
| 日本郵船グループ株式会社MTI | ファナック株式会社 |
| 富士通株式会社 | マツダ株式会社 |
| 三菱電機株式会社 | 横河電機株式会社 |
| ロジスティード株式会社(旧日立物流株式会社) | |

準会員

| | |
|---------------|--------------------------------|
| 電腦バンク株式会社(準1) | 三菱重工業株式会社 デジタルイノベーション本部(準2) |
|---------------|--------------------------------|

(準1)インキュベーション会員、(準2)人財育成限定会員
(2024年4月1日現在:五十音順)

©SIC 2024.4

発行者: 一般社団法人システムイノベーションセンター(SIC)
代表理事・センター長 浦川伸一
編集者: SIC 実行委員 中野一夫 (構造計画研究所)
事務局 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-12-7 ストック新宿 B-19 号
URL: <https://sysic.org> E-mail: office@sysic.org Tel.Fax: 03-5381-3567